

かくだ 市議会だより

第238号

令和8年11月1日



【今月号の表紙】

『夜景に魅せられ』

スペースタワー・コスモハウス夜間特別開館の際に、展望台から撮影された一枚。灯りに包まれる夜の角田。その輝きに思わず「きれい！」。

《撮影》 渡邊 文彌 さん

撮影日：令和8年8月15日

場 所：角田市内

第439回定例会

- 概要・質疑 2
- 自由討議 3
- 決算審査特別委員会 4・5

角田市議会から

- 議案審議結果 6
- 一般質問 7～12
- 行政視察報告 13
- 一般会議・チャレンジデー・熊本地震義援金 14

表紙写真募集

12月18日まで

詳細はこちら▶



議会だより アンケート

回答はこちら▶





自由討議

「新中学校整備について ～基本設計に向けて、議会として何を求めるか～」

【通告者】 齋藤 克敏

新中学校は令和13年度に開校予定で、国が学びの内容を定める次期学習指導要領が中学校で全面实施される年度と重なる。校舎は60年以上使用れ、床面積や柱の配置は後から変えられない。本市の不登校率は中学校で9・98%、およそ10人に1人で全国平均を上回る。設計が固まれば変更は困難だ。学校は勉強するだけの場所ではなく、多様な人との関わりの中で人間関係を学ぶ場でもある。

この事業を建物の更新ではなく、子どもたちへの投資、公教育が転換する契機と捉え、3点を問う。

①子どもの目線から、通いとなる学校、通いたくなくなる学校とはどんな学校か。

②計画にある「多様な学びに対応する」理念は、どうすれば実現するか。

③基本設計に向けて、議会は執行部に何を求めるべきか（居場所・可変性・子どもの声の反映・市民への説明など）。議員各位の考えを伺いたい。

～発言者および発言内容は次のとおりです～

八島 定雄▼学校施設の基本設計は、生徒の多様化に対応するとともに、ゆとりある空間と潤いを持つて学校生活を送ることができ、仲間との関わりの中で豊かな人間性を育むことができるよう、学習および生活の場として快適な居場所を考慮することが重要だ。そのため、採光、通風、室温、音の影響等に考慮した良好な環境条件を確保すること。

瀧口 聖人▼将来の変化に対応できる「可変性」を持たせること。学校は50年、60年と使う可能性があるが、現在の児童生徒数や教育方法だけを基準にすると、将来使いにくい学校になる可能性がある。したがって、「変えられる学校」「使い方を換えられる学校」を求めることが重要だと思う。

戸村眞喜夫▼当局から今後、具体的提案が議会に提出されるので、都度、議論していくことが議会の責務だ。学校教師を退任した方によると生徒が

自分の欲求が実現できる、承認してもらえ居場所があるなどが重要とのこと。また、どんな教育環境の変化にも耐えうる、機能性を重視した設計が必要だ。例えば、毎日掃除がしやすい設計がよいとのことであった。

武藤 広一▼子どもが通いたくなる学校は、勉強やスポーツなどが楽しく、友達や先生との関係が充実している学校。通いたくない学校はこの真逆。計画に書かれた理念の実現は、教師を信頼し任せることが大事。

議会が執行部に求めるものは、節目に全員協議会や所管の常任委員会でも報告をし、市民の意見を反映させること。最小の経費で最大の効果を要求する。

菅野 マホ▼「人が減ったから新しい学校を創る」ではなく「今、必要があつて角田市に特別な学校を創る！」という名の下に、子どもたちがワクワク・ドキドキして待

つ学校。計画の段階から、箱の中身を子どもたちとシェアしていくことが大切。通い続けるには外観も大切。「かっこいい」「通いたい！」という日本に1つの宇宙の中学校を。

齋藤 強▼新中学校建設は、地震や台風被害に備えた設計で、安全で安心な学校生活が送れるような校舎となつてほしい。また、新中学校の整備に関する基本方針を教育委員会会で示したが、ハード面だけでなく、やはりソフト面が大事かと思うので、この機会に改めて教育方針なども同時並行で見直せればと考える。

菊地 利衛▼子どもたちの多様性は無限大だと考えているので、全ての要件を吸収できるような学校を作ることは無理と言ふほかにない。さらに、今後ICT、AIなどの教育現場への出現で急速に変化せざるを得ない。学校は、建物より中身が重要だ。教育委員会がさまざまな調査をした上で

学校の設計をするのであればそれを支持したい。

渡邊 誠▼今回の中学校建設については、当局で最先端の情報をもって計画が策定されるものと考えている。その計画を見て判断していきたいと考えている。昨今の中学校教育の課題に対し十分に配慮し進めるべきものと考えてるが、指摘されている課題はソフト面の見直し、充実が必要かと感じている。

柄目 孝治▼討議に供された「通いたくなる学校」などと新中学校建設基本設計とを結びつけることには無理があると思う。設計に関しては、教育委員会をはじめ専門家など経験値が豊かな実績から活動空間の確保に向けた配慮がなされ、保護者や市民の意見を基に基本設計に反映するという信頼の置ける取り組みにゆだねることも大切だと思う。

※議席番号順に掲載

第439回 定例会 9月

第439回定例会は9月2日から9月30日までの29日間の会期で開かれました。

市長から提案のあった条例の改正、補正予算、令和7年度各種会計決算などの議案13件を審議し、原案のとおり可決・認定しました。

一般質問では、11人の議員が市政全般にわたり論戦を繰り広げました。

また、議員提出議案が1件提出され、原案のとおり可決しました。

補正予算の詳細はこちら



議案第53号から
議案第56号まで



議案第60号

議案
第53号

角田市一般会計補正予算（第3号）

賦課徴収費

市県民税申告相談予約受付業務委託※

問 申告相談予約受付業務を開始するところがあるが、1日の平均人数や申告相談に費やす時間をどれくらいと見込んでいるか。

答 1日の平均人数は120人程度、1人あたりの申告相談の時間は申告相談内容にもよるが平均30分程度と見込んでいる。なお、これまで受付人数を平準化するために受付日ごとに地区を限定していたが、事前予約制を採用することで、地区割が不要となる。住んでいる地区に関わらず、空き枠があれば予約が可能となる。

問 予約の操作が困難な市民を対象に、専用回線を設置する必要があるのか。

置き、オペレーターが代理で予約を登録とあるが、オペレーターは何人体制か。

答 現時点で5回線5人を想定している。

※申告相談時の混雑解消と待ち時間短縮などを図るため、パソコン・スマートフォンから予約可能とする申告相談予約システム導入などの業務委託を行うもの。
専用電話を設置し、システムでの予約操作が困難な方を対象に、オペレーターが代理で予約と登録をするもの。

公園管理費

台山公園トイレ改築工事費

問 予定工期が令和8年12月から令和9年12月までとなっているが、仮設トイレの設置は必要なのか。



▲今回改築する台山公園トイレ

学校建設費

新中学校整備事業手法検討業務委託料

問 今回の検討で比較対象となる事業手法はどのようなものを想定しているか。

答 ①設計・施工・維持管理を個別に発注する従来方式、②設計段階から施工事業者を参画させるECI方式、③民間事業者が資金を調達し、設計・施工・維持管理を一括して発注した上で長期契約を締結するPFI方式、④自治体が資金を調達し、設計・施工を一括して発注するDB方式、⑤自治体が資金を調達し、設計・施工・維持管理を一括して発注するDBO方式を想定している。

議案
第56号

角田市介護保険 特別会計補正予算（第2号）

高齢者生きがい活動促進事業補助金

問 高齢者生きがい活動促進事業補助金として200万円が全額国庫支出金で措置されているが、今後事業の拡大は見込めないものか。

答 本事業は応募式となっており、その目的は住民主体によるサービスに資する活動の環境整備に対する補助であるため、地域の介護予防の整備として各地域の団体に普及していきたいと考えている。市ホームページへの掲載に加え、自治センター・地区振興協議会・社会福祉協議会に周知を行い、他の団体を募っている。

決算審査特別委員会での質疑

国民健康保険事業特別会計

問 国民健康保険税の収納率が増加した要因は。
答 未納者に対する電話催告や差し押さえなどを実施したほか、不納欠損処分を行ったことによるもの。

水道事業会計

問 有収率（※）が昨年度より8.3ポイント上回った背景は。
答 令和6年度末に北角田中学校付近の大規模な漏水箇所を特定したこと。令和7年度からは市内を11の排水ブロックに分け、監視・漏水調査を行ったことにより、高倉、枝野の2カ所の漏水箇所を特定できたことが有収率の上昇につながった。
（※）給水した水量がどの程度収益につながっているかを表す。

【現地調査】

令和7年度決算に係る審査の参考とするため、総合保健福祉センター大規模改修工事、赤生地区水路整備工事（写真）、道の駅かくだ地域振興機能施設改修工事など市内数箇所での現地調査を行いました。



一般会計
歳出

総務費
（ふるさと納税事業）

問 寄附額に占める費用割合が昨年度と比較すると2ポイント程度増加しているがその理由は。
答 競争力を確保するため、寄附金額に対する返礼品代の割合を増やした。
また、令和7年度はクラウドファンディングによる寄附に力を入れた結果、それに伴いウェブ掲載手数料が増加した。



令和7年度実施のクラウドファンディング（現在）は募集を終了しています。

一般会計
歳出

教育費
（学力向上推進事業）

問 令和7年度から市内の小中学校で導入したA Iドリルの「すららドリル」とはどのようなものか。
答 一人一人の学力に合わせた問題がA Iによって出題される仕組みとなっている。A Iドリルを使用することで、どこまで習得しているかななどをA Iが判断し、つまづきなどがあればその改善が図られるもの。

一般会計
歳出

商工費
（地域消費喚起緊急支援事業）

問 3割増商品券の共通券、専用券の利用状況は把握しているか。
答 大・中規模店は共通券が約18万7,000枚で9,370万円ほど、小規模店は共通券、専用券合わせて約25万3,000枚で1億2,600万円ほど利用されている。

本会議での討論



賛成

瀧口 聖人 デジタル改革推進事業、総合保健福祉センター改修事業、児童手当等支給事業、橋りょう維持補修事業、災害対策事業（防災行政無線システム整備工事費）など、市民生活に必要な、即応した対策が講じられている。特に、歳入面では市税などの収入率が95.69%となり、前年度と比べ0.16ポイント上昇し、収入増が図られている。ふるさと納税寄附金は前年度より8億円増え約57億円を確保し、市税約38億円を超え、ふるさと応援基金に約29億円の積み立てを行い、基金残高は前年度と比較して約11億円増加し、健全で持続可能な財政基盤の確立に努めている。当局に感謝し、賛成する。



反対

八島 定雄 デジタル技術に伴う危険性に根本から向き合わず、「デジタル化ありき」で推し進め、地方への押し付けは大問題。避難所指定の体育館などへの空調設備設置は、据付式を100%目指すべき。独自の学力テストに年間約200万円は、「災害級」とも言える不登校問題へ再配分すべき。国民健康保険および介護保険は、地方自治体の努力に依存することなく、負担軽減策など、被保険者の診療を受ける権利、健康権がしっかりと保障される制度へ転換が必要。後期高齢者医療保険は、負担増を我慢するのか、医療を受けるのを制限するのか迫る害悪が本格化。以上のことから反対する。

令和7年度 決算を

認定

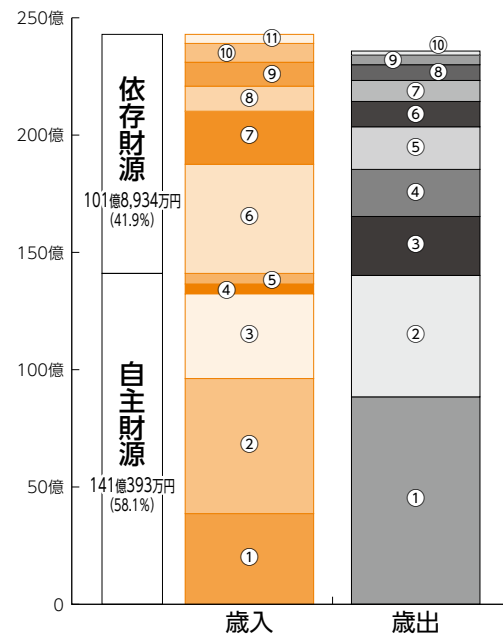
市の予算は使って終わりではありません。「何のために」「どのように集めたのか」「どのように使ったのか」「事業の成果はどうだったのか」など、議会はその内容について審査をします。

9月定例会では、議会選出監査委員を除く14人の議員で構成する決算審査特別委員会（湯村勇委員長、日下七郎副委員長）を設置し、令和7年度決算の審査を行いました。前年度の予算の使い方が適正かつ効率的であったかを確認し、一般会計、特別会計及び企業会計いずれの議案も認定しました。

一般会計

歳入（入ってきたお金）
242億9,328万円

- ①市 税 38億6,537万円(15.9%)
- ②寄 附 金 57億5,729万円(23.7%)
- ③繰 入 金 36億 568万円(14.8%)
- ④繰 越 金 4億2,431万円(1.7%)
- ⑤使用料等 4億5,128万円(1.9%)
- ⑥地方交付税 46億5,223万円(19.2%)
- ⑦国庫支出金 22億5,966万円(9.3%)
- ⑧県支出金 10億7,021万円(4.4%)
- ⑧市 債 10億1,910万円(4.2%)
- ⑩地方消費税交付金 8億 233万円(3.3%)
- ⑪そ の 他 3億8,581万円(1.6%)



歳出（使ったお金）
235億8,220万円

- ①総 務 費 88億4,210万円(37.5%)
- ②民 生 費 51億7,523万円(21.9%)
- ③教 育 費 25億1,326万円(10.7%)
- ④土 木 費 20億 674万円(8.5%)
- ⑤公 債 費 18億1,679万円(7.7%)
- ⑥衛 生 費 10億7,956万円(4.6%)
- ⑦農 林 業 費 8億9,552万円(3.8%)
- ⑧消 防 費 6億7,092万円(2.8%)
- ⑨商 工 費 4億 781万円(1.7%)
- ⑩そ の 他 1億7,428万円(0.7%)

※金額は1万円未満を四捨五入しているため、合計が一致しない場合があります。

特別会計

会 計	歳 入	歳 出
国民健康保険事業	33億3,925万円	31億9,876万円
後期高齢者医療	4億8,930万円	4億8,589万円
介護保険	33億2,450万円	32億8,284万円
産業用地造成事業	500万円	500万円
東根財産区	11万円	11万円

企業会計

会 計	歳 入	歳 出
水 道 事 業	収益的収支	9億9,513万円
	資本的収支	4,189万円
下 水 道 事 業	収益的収支	10億9,103万円
	資本的収支	10億1,468万円

【一般会計決算の概要】

令和7年度の一般会計の決算額は、前年度と比較して、歳入は28億2,497万円（13.2%）の増額、歳出は27億3,683万円（13.1%）の増額となっています。

☑歳入の増額の主な要因

ふるさと納税寄附金や各種基金からの繰入金のほか、市税において収入増となっています。

☑歳出の増額の主な要因

橋りょう維持補修事業や公債費償還元金、各種基金への積立てなどによるものです。



◀決算概要の詳細はこちら

一般質問

一般質問とは、角田市のさまざまな課題などについて、市長や教育長などに対し、事務の執行や将来の考えを質することです。質問は一问一答で、議員1人につき30分以内（答弁時間は含めない）で行われます。質問した議員ごとに要約してお知らせします（その他の質問の要約は掲載されておりません）。詳細は、各議員名の下の二次元コードを読み込むと、録画映像をご覧ください。

戸村眞喜夫	八島 定雄	瀧口 聖人	齋藤 強	日下 七郎	柄目 孝治	菅野 マホ	齋藤 克敏	星 隆悦	渡邊 誠	菊地 利衛	質問議員 (質問順)
角田市地域農業経営基盤強化促進計画（地域計画）の実践状況について	本市における障害者雇用に関することについて 「補聴器で健康寿命の延伸へ」について	東北楽天ゴールデンイーグルスの2軍拠点誘致について	高齢者世帯の安心、安全な暮らしを守るために ゴミ問題について	・内町堀川上流の流水断面20㎡／sを35㎡／sに改めることについて ・宮城県管理河川の維持管理に関するものについて	角田市防災・減災構想に関するものについて その他の質問	「2026年角田発・宇宙イベント」について 「防災行政無線システムの運用」について 令和元年東日本台風被害から学ぶ	札幌市への視察を踏まえた不登校児童生徒とその家庭への支援強化について	角田市新中学校整備基本計画（案）について	人口減少の実態と関連施策について	若い世代の移住定住を促進するために 物価高騰に対する支援について	質問項目
12	12	11	11	10	10	9	9	8	8	7	頁

議員▼国勢調査によれば、本市の人口減少率は県平均より大幅に高い。特に若い世代が減少している。その要因は、「仕事とまちなかの魅力に欠けている」からとの認識はあるか。

市長▼第三次産業は少ない。まちなかの魅力についても若者を引きつける意味では弱いと思っている。議員▼国内外の企業に設備投資の動きがある。さらに東北経済産業局やJAXA角田宇宙センターの支援による宇宙産業の誘致など、本市の企業誘致環境はこれまでにないほどチャンスに満ちているが受皿は充分か。

市長▼受皿は現在ないので準備していく。議員▼宇宙産業を根付かせる事業は既に始まっているのに、産業用地などの受皿がないのは計画性がないのではないか。危

機感はないのか。

市長▼危機感がないわけではない。具体化できるように進めている。議員▼恵まれた環境にあるとは言え、自治体間の競争なので優遇制度も含めて早急に対応すべきだ。市長▼理解はしている。議員▼地域の事業所数が激減していることも人口減少の要因だ。地域産業の足腰・経営体質を強化する必要がある。

市長▼状況を把握し寄り添っていく。議員▼地域産業の足腰を強めるために、高度な技術やノウハウを伝授してもらえらる相談・アドバイスを機能を創設すべきだ。市長▼相談・指導を貰う体制を早急に整えたい。議員▼若い世代の定住促進を図るため「まちなかの魅力」を増すことも重要だ。道の駅への集客は増えているが、県の観光

統計によればそれ以外への観光客数は減少している。まちなかに、市民や観光客が買いたいもの、食べたいもの、見たいもの、体験したいものを作るべきだ。

市長▼考えていかなければならない。議員▼子育てしやすいまち日本一を目指してきたが、若い世代の定住につながるためにはインターネットでも検索できる必要がある。

市長▼インターネット上の発信に力を入れていく。物価高騰に対する支援について

議員▼昨今の食品などの値上げにより生活苦を訴える声が聞かれる。市民を対象とした支援を考えてないのか。

市長▼予定は今のところない。



若い世代の移住定住を促進するために

菊地 利衛



一般質問の映像配信をご覧ください。

審議結果一覧

○…賛成 ×…反対 ―…退席又は欠席 議長（馬場 道晴）は採決に加わらない。

提出者	議案番号	件名	審議結果 (賛成：反対)	会派一心			かくだ未来倶楽部		会派翔誠			日本共産党 角田市議員		無会派 (会派に所属しない議員)		
				菊地 利衛	渡邊 誠	戸村眞喜夫	武藤 広一	星 隆悦	菅野 マホ	湯村 聖人	瀧口 強	齋藤 七郎	日下 定雄	八島 克敏	齋藤 孝治	柄目 孝一
市	議案第48号	角田市認可地縁団体印鑑条例の一部改正について	可決 (14：0)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	議案第49号	角田市廃棄物の減量及び適正処理並びに環境美化の促進に関する条例の一部改正について	可決 (14：0)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	議案第50号	角田市損失補償契約に係る回収納付金を受け取る権利の放棄に関する条例の一部改正について	可決 (14：0)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	議案第51号	角田市景観条例の一部改正について	可決 (14：0)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	議案第52号	角田市水道事業及び下水道事業の設置等に関する条例の一部改正について	可決 (14：0)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	議案第53号	令和8年度角田市一般会計補正予算（第3号）	可決 (11：3)	○	○	○	○	×	○	○	○	×	×	○	○	○
	議案第54号	令和8年度角田市国民健康保険事業特別会計補正予算（第2号）	可決 (14：0)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	議案第55号	令和8年度角田市後期高齢者医療特別会計補正予算（第1号）	可決 (14：0)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	議案第56号	令和8年度角田市介護保険特別会計補正予算（第2号）	可決 (14：0)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	議案第57号	令和7年度角田市一般会計及び各種特別会計歳入歳出決算の認定について	認定 (12：2)	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	○	○	○
長	議案第58号	令和7年度角田市水道事業会計決算の認定について	認定 (14：0)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	議案第59号	令和7年度角田市下水道事業会計決算の認定について	認定 (14：0)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	議案第60号	令和8年度角田市一般会計補正予算（第4号）	可決 (14：0)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議員	議会案第3号	地方自治法第180条第1項の規定に基づく市長の専決処分指定事項の一部変更について	可決 (10：4)	×	○	×	○	○	○	○	○	○	×	×	○	○

ライブ・録画配信をやっています



インターネットを利用してパソコン・スマートフォン・タブレット端末でライブ中継がご覧になれます。
また、インターネットによる録画中継の配信も行っています。

角田市議会 映像配信 検索

第438回臨時会・第439回(令和8年9月)定例会

傍聴者数 10人
インターネットライブ中継視聴者数 延べ 474人

インターネット録画中継視聴者数
7月～9月 延べ 2,172人

請願・陳情の提出期限は 11月30日(月)まで

議会招集日の7日前までに提出された「請願」や「陳情」は、その定例会中に審議されます。



▲提出方法

議会だより第237号（8月号） モニターアンケート結果

アンケート結果の一部をお知らせします。



詳細はこちら

Q 8月号で興味を持った記事（表紙を除く）はありましたか。 （複数回答可）

- | | |
|-------------------------|----|
| 1. 2・3ページ：定例会の概要・質疑・討論 | 5人 |
| 2. 3ページ：農業委員会委員の任命・議員表彰 | 1人 |
| 3. 4ページ：議案審議結果・意見書提出 | 4人 |
| 4. 5ページ：一般質問項目 | 6人 |
| 5. 6～12ページ：一般質問内容 | 8人 |
| 6. 12ページ：行政視察報告 | 5人 |
| 7. 13ページ：政務活動費収支報告等 | 2人 |
| 8. 14ページ：表紙募集・9月定例会の予定 | 4人 |
| 9. 興味を持った記事はなかった | 0人 |



人口減少の実態と関連施策について

渡邊 誠



議員▼2025年末の人口は何人で、その数は、本市の第6次長期総合計画の目標値と比較しどのように評価されているか問う。

市長▼2025年12月31日現在の本市の人口は2万5920人で、第6次長期総合計画の将来人口目標値2万7193人に比較し、1273人の減少となったが、2065年における将来推計人口目標1万4709人はおおむね妥当な目標であると評価している。

議員▼「子育てしやすいまち日本一」を目指して、子育てしやすいまち日本一を目標とする。第6次長期総合計画の将来人口目標1万4709人はおおむね妥当な目標であると評価している。

議員▼第6次長期総合計画後期において「子育てしやすいまち日本一」を目指す取り組みについてどう進めるか問う。

市長▼「子育てしやすいまち日本一」を目指し、保育料・子ども医療費・給食費の無償化による経済的負担の軽減と子育て

に對する不安の軽減の両面の取り組みから、子育て環境は着実にいい方向に進んでいるものと認識している。今後、市民から強く要望されている屋内遊び場、居場所づくりなどの整備を進め、子育て環境の一層の充実に努めていく。

議員▼「子育てしやすいまち日本一」を目指していることについて広く市民に知っていただき角田市全体で取り組むものとして気運を高めてはどうか問う。

市長▼広く市民にご理解をいただき進めていく。議員▼直近の全国学力・学習状況調査の結果と今後の取り組みを問う。

教育長▼令和8年度の全国学力・学習状況調査の結果は、小中学生ともに全国平均を下回ったが、令和6年度、令和7年度



札幌市への視察を踏まえた不登校児童生徒とその家庭への支援強化について

齋藤 克敏



議員▼国は、専門的な支援を受けていない不登校の子が全国に約13万6千人いるとして、全ての子の学びの場の確保を求めている。不登校対策を、新中学校整備に限らず最優先事項の一つに位置づける考えは変わらないか。市長▼位置づけている方針に何ら変わりはない。教育長▼教育委員会としても、同じ方針である。議員▼教室に入れない子が校内で過ごせる「居場所」に、専任の支援員がいる学校は何かあるか。教育長▼中学校2校には教諭と支援員を置き、小学校は角田小のみ支援員が1人いる状況である。議員▼札幌市は職員室の一角を区切る居場所で、利用した子の82%で登校状況が改善した。新中学校完成を待たず、今の校舎で、部屋と人をセッットで始めるべきではないか。教育長▼直ちに始めるべき課題と認識している。空き教室や職員室の一角も活用して進めたい。落ち着く場所は子ども自身に決めてもらうのが大事。議員▼国は令和9年度予算の概算要求で、居場所の支援員の予算を12億円から25億円へ倍増する方針。本市でも、この財源を活用するの。教育長▼使える財源は、できるだけ活用したい。議員▼札幌市は、子どもの健康状態を確認する健康観察アプリ「シャボテ」で、不登校の予兆を早期につかんでいる。本市も導入してはどうか。教育長▼教職員の負担も考慮するとともに、無料アプリの活用も比較し、前向きに検討を進めたい。議員▼自宅から出られない子には、通う居場所では届かない。札幌市はメタバース（仮想空間）を使って、自宅で受けられるオンライン支援を実際

に行っている。本市でも導入する考えはあるか。教育長▼利用者は恐らく1人から3人程度と見込まれ、市単独で導入するのは難しいと考えている。議員▼市が自前で整えず、民間のオンライン中等部やオンラインフリースクールの利用料を、家庭に助成してはどうか。全国で11都道府県、78市区町村が既に実施している。教育長▼オンラインフリースクールなどの活用は、Aドрил事業者を通じて調査検討する。オンライン学習の出席扱いには、要件が7つあり難しいが、認める方向で進めたい。議員▼このオンライン支援を、近隣自治体と共同で運用する考えはあるか。教育長▼大河原管内教育長会議などで話題提供し、他自治体の感触を探る。

議員▼この夏、角田市で開催された「ポケモン天文台」（7月5日～9月15日）は、県の経費で行われたため、本市は知名度アップになり大変ありがたかった。またこのイベントに合わせ「かくだ宇宙フェスタ」（7月1日～10月18日）が開催されているが、残念なことに市民に事前告知がなかったため、町なかにバスが走るのを見ても「市民が乗っていないのか分からない」とぼやきが出るほど、後手後手の発動となった。「かくだ宇宙フェスタ」には、5000万円もの税金を費やし運用されており、市民もイベントについて知る権利がある。市民への周知時期とその方法を問う。市長▼「広報かくだ」には、今年4月号～9月号まで連載記事を掲載し、準備段階から定期的な情報発信に努めていた。議員▼循環バスを運行するのであれば市民の声を反映し参加できるイベントでなければならぬ。バスだけでなく食事処や市民の皆さんにアンケートを取って検証していただきたい。市長▼「宇宙フェスタ」が終わったから、しっかりと各関係者、市民の声を集められるようにしたい。議員▼令和元年東日本台風「防災行政無線システム」の運用について、令和元年東日本台風被害から学ぶ。議員▼令和元年12月、令和5年6月定例会一般質問において緊急防災・減災事業債を活用した「防災行政無線」導入を要望してきた。現在はどういう運用をされているのか問う。市長▼今年9月1日より本格運用している。気

象・地震情報や避難指示、避難所開設情報、国民保護情報などの緊急放送他、動作確認のために正午と夕方のメロディーによる維持管理放送を実施している。議員▼水害時の警戒レベル1～5の発令時の「防災行政無線」による対応を問う。市長▼気象庁等から警戒レベル4、警戒レベル5の特別警報が発表された際に緊急放送を実施する。議員▼防災行政無線がどういう言葉で発信されるか分からない。実際、地域によって声が聞こえなかったり、早かったり、遅かったり、難しいと思う。トライアル期間というのではないのか。市長▼よりよい情報伝達手段となるように調整をしていく、そういった運用方法で今臨んでいるところだ。

が、学習面において力点を置く具体策を問う。教育長▼①協働的な学びの創出、②個別最適な学びの推進、③教職員の指導力向上である。優れた校舎や環境があっても、子どもたちの知的好奇心を引き出すのは教師の指導力にほかならないと考えている。議員▼美里町で実施している「地域学校連携室」が学校に設置された場合、地域や外部の目が入り不登校やいじめ問題に間接的な抑止効果があると考えるが、見解を問う。教育長▼「地域学校連携室」を設置する予定はないが「地域活動室」の設置を予定しており、地域や外部の目が入り、不登校やいじめの防止に間接的な抑止効果があると考えている。

と、角田市の考えが解らないので、県としては動きようがない。」とのことだった。非公式には交渉していたか問う。教育長▼令和2年1月に策定した「角田市学校の適正規模等に関する基本構想」の中で、角田中学校と北角田中学校を統合し旧角田女子校跡地に新設するという案を示している。このため、時期が来たら交渉する可能性があるという話はしている。議員▼開校時期が令和13年度以降とのことだが、理由を問う。教育長▼土地の取得と、設計工事に2年半～3年程度を要する見込みから、開校時期は最短で令和13年4月を見込んでいる。議員▼基本方針の具体的には「主体的・対話的で深い学びを実現する環境を整えます」とのことだが、



角田市新中学校整備基本計画（案）について

星 隆悦



議員▼角田市学校の適正化規模等に関する基本構想「第3次行動計画構想」に基づく学校再編・統合の具体化方針により、ようやく「角田市新中学校整備基本計画（案）」が提案された。現在の角田中学校は、築61年も経ちお世辞にも良い環境とは言えず、もっと早く整備すべきだったのと思い、80億円と想定される整備費の妥当性の観点から、次の質問をする。建設予定地は「旧角田女子高等学校、約4万㎡」だが、まだ県から譲渡されていない。なぜ取得が遅れているのか、理由を問う。教育長▼旧角田女子高等学校跡地の取得は、計画的に協議を進めており、遅延している認識はない。議員▼かなり前に、県教育委員会に問い合わせた

ところ、「角田市の考えが解らないので、県としては動きようがない。」とのことだった。非公式には交渉していたか問う。教育長▼令和2年1月に策定した「角田市学校の適正規模等に関する基本構想」の中で、角田中学校と北角田中学校を統合し旧角田女子校跡地に新設するという案を示している。このため、時期が来たら交渉する可能性があるという話はしている。議員▼開校時期が令和13年度以降とのことだが、理由を問う。教育長▼土地の取得と、設計工事に2年半～3年程度を要する見込みから、開校時期は最短で令和13年4月を見込んでいる。議員▼基本方針の具体的には「主体的・対話的で深い学びを実現する環境を整えます」とのことだが、

が、学習面において力点を置く具体策を問う。教育長▼①協働的な学びの創出、②個別最適な学びの推進、③教職員の指導力向上である。優れた校舎や環境があっても、子どもたちの知的好奇心を引き出すのは教師の指導力にほかならないと考えている。議員▼美里町で実施している「地域学校連携室」が学校に設置された場合、地域や外部の目が入り不登校やいじめ問題に間接的な抑止効果があると考えるが、見解を問う。教育長▼「地域学校連携室」を設置する予定はないが「地域活動室」の設置を予定しており、地域や外部の目が入り、不登校やいじめの防止に間接的な抑止効果があると考えている。



「2026年角田発・宇宙イベント」について

菅野 マホ



議員▼この夏、角田市で開催された「ポケモン天文台」（7月5日～9月15日）は、県の経費で行われたため、本市は知名度アップになり大変ありがたかった。またこのイベントに合わせ「かくだ宇宙フェスタ」（7月1日～10月18日）が開催されているが、残念なことに市民に事前告知がなかったため、町なかにバスが走るのを見ても「市民が乗っていないのか分からない」とぼやきが出るほど、後手後手の発動となった。「かくだ宇宙フェスタ」には、5000万円もの税金を費やし運用されており、市民もイベントについて知る権利がある。市民への周知時期とその方法を問う。市長▼「広報かくだ」には、今年4月号～9月号まで連載記事を掲載し、準備段階から定期的な情報発信に努めていた。議員▼循環バスを運行するのであれば市民の声を反映し参加できるイベントでなければならぬ。バスだけでなく食事処や市民の皆さんにアンケートを取って検証していただきたい。市長▼「宇宙フェスタ」が終わったから、しっかりと各関係者、市民の声を集められるようにしたい。議員▼令和元年東日本台風「防災行政無線システム」の運用について、令和元年東日本台風被害から学ぶ。議員▼令和元年12月、令和5年6月定例会一般質問において緊急防災・減災事業債を活用した「防災行政無線」導入を要望してきた。現在はどういう運用をされているのか問う。市長▼今年9月1日より本格運用している。気

象・地震情報や避難指示、避難所開設情報、国民保護情報などの緊急放送他、動作確認のために正午と夕方のメロディーによる維持管理放送を実施している。議員▼水害時の警戒レベル1～5の発令時の「防災行政無線」による対応を問う。市長▼気象庁等から警戒レベル4、警戒レベル5の特別警報が発表された際に緊急放送を実施する。議員▼防災行政無線がどういう言葉で発信されるか分からない。実際、地域によって声が聞こえなかったり、早かったり、遅かったり、難しいと思う。トライアル期間というのではないのか。市長▼よりよい情報伝達手段となるように調整をしていく、そういった運用方法で今臨んでいるところだ。

が、学習面において力点を置く具体策を問う。教育長▼①協働的な学びの創出、②個別最適な学びの推進、③教職員の指導力向上である。優れた校舎や環境があっても、子どもたちの知的好奇心を引き出すのは教師の指導力にほかならないと考えている。議員▼美里町で実施している「地域学校連携室」が学校に設置された場合、地域や外部の目が入り不登校やいじめ問題に間接的な抑止効果があると考えるが、見解を問う。教育長▼「地域学校連携室」を設置する予定はないが「地域活動室」の設置を予定しており、地域や外部の目が入り、不登校やいじめの防止に間接的な抑止効果があると考えている。



市民生活を脅かす異常気象変動危機対応に関して

柄目孝治



どうなのか問う。

議員▼市民生活を脅かす異常気象変動危機対応に
関し、単刀直入に風水害に特化した質問をする。
本市においてはこうした苦境にさらされることなく平穏に過ごしていることは幸運と感じているが、今夏の気象状況や今後の変動予測などから激甚災害が襲うかもしれないと危惧するが、この状況に対する市長の認識なり危機意識度合いを問う。

市長▼常に明日は我が身として危機感を持ち対応している。「人の命」を守るため緊急連絡体制の整備など自主防災組織により防災力向上を図る。
議員▼肝心なことは「どうやって」ということになるがその自主防災組織も未組織行政区もあるのか。確実に防災力を高めるにはこの辺りから点検見直しが必要かと思うが

慮するが見解を問う。

市長▼まず行政がやることとして連絡体制を含めた防災組織を全地区がしっかりと作成すること。それに基づく訓練と点検・連携が大切と思う。
議員▼防災情報の収集・分析に加えて市民への伝達・指示それに続いて市民住民の避難行動に移っていくのだが、その体制や能力レベルについて市長の見解を問う。
市長▼市街地ほど大きなコミュニティの希薄化が懸念される状況であり、平時から災害時まで切れ目のない取り組みを着実に進め地域における助け合いの重要性について啓発していく。
議員▼平常時啓蒙・啓発は欠かせない準備活動だ。特に要支援者においては行政と各行政区との連携を中心に見直す時期と憂

市長▼要配慮者を誰が支援しどこへどのように避難するのか確認していく必要がある。避難行動要支援者に対する個別避難計画も作成していく。各行政区の特性に応じた支援体制の構築を通じて、防災力向上に努める。
議員▼仕組みはあるが現実には機能しない、実対応行動として「素早く」「安全に」「確実に」行動に移せるか危惧する。重要なのは地区内における人間関係であり絆が深く関わる局面で、それを行政の立場から強く誘導することが災害対策・避難活動の根幹と思うが。
市長▼真にこれは行政が担わねばならない部分だと思っている。地域活動団体との連携を図りつつ地域の力を集結した取り組みが重要と考える。



角田市防災・減災構想に 関することについて

日下七郎



議員▼小田・裏町地区の「小田川河川改修を関係機関へ要請」を問う。
市長▼宮城県大河原土木事務所に確認をしたところ、阿武隈急行線交差点から地藏堂橋までの2・3キロメートルの区間は、令和9年2月までに測量設計業務が完了予定で、工事は、測量業務終了を勘案し、今後、協議しながら進めるとの回答があった。

議員▼令和6年3月、尾袋川・小田川流域が特定都市河川および特定都市河川流域の指定を受けたが、特定都市河川浸水被害対策法の目的に、流域水害対策計画の策定、河川管理者による雨水貯留施設整備その他の計画もあり、小田川の工事との整合性を問う。
市長▼河川は県と協議を

し、流域治水の中での流域水害対策計画となり、関係機関で協議をしていくものと思っている。小田川の流域のため、大沼水田の雨水は小田川の下をサイフォンにより右岸側に流して長瀬の流水と合流させ排水機場を設けた中で阿武隈川に流す計画である。
議員▼左関地区の「関ノ内地区に排水ポンプの新設」を問う。
市長▼排水ポンプは令和8年9月末に完成し、竣工検査を受けた。排水流域は、関ノ内・明地地区20・4ヘクタール、ポンプの口径400ミリメートル、排水能力毎分18立方メートルである。
議員▼左関の排水機場は、裏町の排水機場を移築したものを取り外すのか。
上下水道事業所長▼左関

の雨水ポンプは、令和9年度に概略設計を予定しており、機能的な部分を検討し令和12年〜15年に工事を計画している。
議員▼枝野地区「沼尻排水機場の排水ポンプ機能強化」一県道丸森柴田線の道路の高上げを関係機関に要請」の状況を問う。
市長▼沼尻排水機場の排水ポンプ機能強化の進捗状況は、小斎・枝野地区排水対策協議会を設置している。10月上旬に県と排水系統や断面等の状況確認を行った後に協議会を開催し、協議をする予定。県道丸森柴田線の高上げは、令和7年度に道路概略設計に着手し、今年度は、軟弱地盤の調査や対策工の検討を行う予定のため、早期整備に向けて働きかける。



高齢者世帯の安心、安全な暮らしを守るために

齋藤 強



議員▼市内における独り暮らしの高齢者の推移と、身寄りのない高齢者を把握しているか。
市長▼令和5年度が1988人、令和6年度が2067人、令和7年度が2138人と増加している。身寄りのない高齢者は情報提供を通じて把握。議員▼身寄りのない高齢者への対策はしているか。
市長▼地域包括支援センターの総合相談で生活状況や意向を確認しながら支援している。
議員▼身寄りのない高齢者が入院する際、身元保証人が困難だが支援は。地域包括支援センター所長▼親族など探して身元保証人になっていただけるよう相談している。
議員▼認知症や病気の進行で意思表示ができない場合、その後の治療に影響するが支援はどうか。

地域包括支援センター所長▼遺言書や医療に関する事前指示書が優先される。緊急の場合は、医療チームが最善の判断を下すこととなる。
議員▼身寄りのない高齢者が亡くなった場合の死後事務は行政でどこまで対応するか。
地域包括支援センター所長▼介護支援課や社会福祉課で死後事務支援を行っている。
議員▼令和7年4月に成年後見支援センターを設置したが利用状況は。
市長▼昨年度は61人の相談で、利用の流れの助言や書類作成支援を実施。
議員▼特に高齢者世帯は、特殊詐欺などの被害リスクが高まるが対策は。
市長▼生活環境課に消費生活相談に関わる専任の職員を配置して相談体制を構築。消費被害の出前

講座の開催や広報紙などでも注意喚起している。
議員▼注意喚起だけでなく防犯機能が付いた電話機や防犯カメラの購入補助も有効と思うが。
市長▼警察にて固定電話に付ける補助装置を貸し出している。防犯カメラの購入補助は検討中。
議員▼指定ゴミ袋の価格設定は適正であるか。
市長▼製造原価や販売店への手数料など加味して仙南地域広域行政事務組合で設定している。
議員▼中東情勢の影響によるナフサ不足から、大崎地方でゴミ出しルールが緩和されているが、ゴミ袋不足とならぬよう仙南でも緩和すべきでは。
市長▼製造原料を変更するなど対策しており安定供給の目途が立っている。



東北楽天ゴールデンイーグルスの2軍拠点誘致について

瀧口聖人



議員▼これまで球団側との間でどのような協議や情報交換が行われているのか問う。
市長▼現在まで数回にわたり、楽天野球団との協議などを重ねている。協議時には、球団側から移転・整備についての考えが提示され、その提示された内容に対する市の対応案を示す形で協議を進めている。協議内容については、楽天野球団と交渉中であることから、お答えすることはできないが、年内に移転候補を5カ所程度に絞るということなので、まずは、その中に残ることを目標に全力で取り組んでいる。
議員▼誘致にあたり、どのような構想を描いているか問う。
市長▼かくたスポーツビレッジ内の既存野球場をメイン球場へ改修し、隣

接地にサブグラウンドを整備する計画である。
議員▼誘致が実現した場合、本市にはどのような経済効果が期待できるのか問う。
市長▼第一に球場などの整備に係る工事費などによる整備効果が考えられる。さらに、2軍の試合の観戦者による消費効果や2軍拠点運営に伴う運営効果が経済効果として期待できると考える。
議員▼誘致に伴い、本市としてどの程度の財政負担を想定しているのか、また、その財源についてどのように考えているのか問う。
市長▼相当程度の費用負担があるものと考えている。財源としては、楽天野球団からの球場使用料や国・県補助金、個人版・企業版のふるさと納税制度などを活用し、財源を

確保していく考えである。
議員▼誘致が実現すれば、市民、とりわけ子どもたちにとどのようなメリットを還元していく考えなのか問う。
市長▼選手の練習風景を間近で見たり、選手による野球教室などを通じ交流することで、口野球を身近に感じる機会になると思う。また、スポーツ少年団や学校の部活動と連携し、技術的な指導をする機会を設けることも考えられる。
議員▼今後どのような点を球団に対する強みとしてアピールしていく考えなのか問う。
市長▼楽天モバイル最強パーク宮城からの距離の近さや県内では比較的温暖な気候であること、食料として米、肉、野菜を地元でそろえられることなどが考えられる。



本市における障害者雇用
に関することについて

八島 定雄



議員▼地方公共団体の障害者の法定雇用率は3.0%だが、本市の最新の障害者雇用率と障害者雇用数について問う。

市長▼令和8年6月1日現在、障害者雇用率は2.67%で、雇用障害者数は6人となっている。

議員▼法定雇用率未達の本市の障害者雇用納付金は、どうなっているか。

市長▼障害者雇用納付金制度は、一定規模を超える民間事業主を対象とする制度で、地方公共団体は納付金の納付対象外。一方、地方公共団体にも法定雇用率を達成する義務があることから、障害のある方の計画的な採用や働きやすい職場環境の整備に取り組み、法定雇用率の達成に努めている。

「補聴器で健康寿命の延伸」について

議員▼私は、角田市議会第419回定例会で「補聴器購入助成制度」の導入を取り上げた。その後の検討状況を問う。

市長▼加齢性難聴の支援は、聴力の検査、補聴器の相談と多岐にわたる。令和9年度から11年度までの取り組みを定める「第10期角田市高齢者福祉計画・介護保険事業計画」において、加齢性難聴に対してどのような対応を行うか、整理していく。

議員▼その計画の内容は、前向きなのか、そうでないのか含めて、どういうことなのか、問う。

市長▼実施するというところで、他の自治体も踏まえ、健康で長生きにつながる知見も取り入れながら、どのような内容で行うかを取りまとめている状況である。



施設園芸等の新規就農者
支援について

戸村 眞喜夫



議員▼世界的なインフレのため、生産コストが急激に上昇し、農業所得の減少を招き、施設園芸の経営に大きな影響が出ている。こうした状況を踏まえ、園芸特産重点強化整備事業の市の補助率を6分の1から3分の1に引き上げ、生産者負担を3分の1とすることが必要ではないか。

市長▼調査し、需要が見い出せば検討したい。

議員▼環境に配慮し、初期投資を抑えられることで費用対効果が高いと考えられる、パイプハウスなどの中古施設の移設に係る費用（材料費、輸送費、移設費など）への助成制度を設け、使われなくなったパイプハウス資材などの有効活用と流動化を図るべきではないか。

議員▼世界的事例も参考にして再度考えたい。

議員▼高齢化などにより営農を継続できなくなった農業者の施設を賃貸（リース）する場合の支援制度を創設し、リース料の一部を助成するべきでは。

市長▼こういった事例があるか調査し、知見を得たい。

角田市地域農業経営基盤強化促進計画（地域計画）の実践状況について

議員▼現在実践されている本市の地域計画は平場の水田の集積・集約化が中心となっているが、いわゆる中山間地域の農家農地については、今後どのような将来像を描いていくのか。

市長▼地域検討会を通じて担い手をはじめとした地域の意見を伺い関係機

関も含め検討していく。

議員▼地域計画を実効性のあるものとするためには、現耕作者と将来の担い手となる経営体の意向を早急に把握することが必要と考えるが、市として意向調査を実施するか。

市長▼関係機関と連携しながらアンケート調査実施に向けて調整していく。

議員▼地域計画を形骸化させず、実効性のあるものとするため、策定後の農地集積・集約化の進捗をどのように検証し、今後どのように計画の見直し・ブラッシュアップを進めていくのか。

市長▼各地区の農地集積率を確認し、達成状況を把握しながら、結果をフィードバックし、議論を深めたい。地域農業の課題の洗い出しを常に行い形骸化を防ぎ、実効性のある計画にしたい。

第438回臨時会

7月28日、1日の会期で行われた臨時会では、次の議案について審議し、全会一致で可決しました。

角田市一般会計補正予算（第2号）

歳入では、物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金等の追加。歳出では、国補正予算に係る物価高騰対策として、中小企業者エネルギー価格・物価高騰対策支援事業補助金の交付に係る経費の増額補正をするほか、中小企業振興資金融資事業の融資可能金額を拡大させるため、預託金および宮城県信用保証協会への保証料補給金を増額補正、関ノ内団地の大規模盛土滑動崩落防止工事の実施に向けた補償費算定業務などの増額補正をするもの。

歳入歳出予算それぞれ1億99万円を追加するもの。

議会日誌

- 7月
 - 21日 第438回臨時会招集告示・会派代表者会議
 - 23日 議員協議会・議会運営委員会
 - 28日 本会議（第1日）
 - 30日 一般会議
- 8月
 - 1日 議会だより第237号発行
 - 26日 第439回定例会招集告示・全議員協議会・会派代表者会議
 - 28日 議員協議会・議会運営委員会・議会だより編集会議

行政視察報告

委員会の所管する課題について先進自治体の事業を調査・研究するため、視察を行いました。

総務産業常任委員会・教育厚生建設常任委員会
視察期間 7月7日（火）～9日（木）

- 【視察者】
 - 星隆悦委員長 瀧口聖人副委員長
 - 馬場道晴委員 湯村勇委員 柄目孝治委員
- 【視察者】
 - 武藤広一委員長 戸村眞喜夫副委員長
 - 齋藤克敏委員 齋藤強委員 菅野マホ委員
 - 堀田孝一委員 渡邊誠委員

- 9月
 - 2日 本会議（第1日）・正副委員長会議
 - 4日 議会運営委員会
 - 11日 本会議（第2日）・決算審査特別委員会（第1日）
 - 14日 決算審査特別委員会（第2日）
 - 15日 議会運営委員会
 - 16日 本会議（第3日）・決算審査特別委員会（第3日）
 - 17日 決算審査特別委員会（第4日）
 - 18日 決算審査特別委員会（第5日）
 - 28日 教育厚生建設常任委員会
 - 29日 本会議（第4日）・議員協議会
 - 30日 本会議（第5日）・議会運営委員会
 - 16日 本会議（第6日）・議会運営委員会・議会だより編集会議
- 10月
 - 16日 議会だより編集会議・議会運営委員会

教育厚生建設常任委員会



総務産業常任委員会



北海道札幌市
「不登校対策（仮想空間（メタバース）の活用を含む。）の取組について」ほか
札幌市では、不登校対策の一環で、児童生徒に毎朝の体調・気分をタブレットに記入してもらい、日々の体調・気分を把握することで不登校になる前の初期対応の仕組みを取り入れていた。また、既存の教室・職員室の一角を活用した校内の居場所づくりに取り組むとともに、外出困難な児童生徒などへの支援としてオンライン支援（メタバースなど）を行っていた。調査した内容から、本市では、優先度をつけて実施検討していかなければならないということを確認した。札幌市での取り組みを参考に、本市における喫緊の課題である不登校問題について、早急に対策を実施するように提言していく。

その他の視察先：北海道栗山町、北海道石狩市

北海道栗山町
「地域おこし協力隊の活動状況とこれまでの実績について」ほか
栗山町地域おこし協力隊は、9人の協力隊員が活動しており、町内に生活拠点を移した上で、コミュニティ活動の支援や、地域資源の発掘・振興に関する活動、農業などの支援活動、町の情報発信に関する活動などを行っていた。課題は、①隊員と職員との信頼関係構築と相互協力による業務遂行、②隊員の定着化に向けた早期の合意形成、③隊員の定着化に必要な支援策の充実化とのこと。本市における地域おこし協力隊の任期終了後の定住率や起業率は高いとは言えない。職員が伴走しながら指導・育成を行い、信頼関係を構築することが重要と学んだため、今後、さまざまな機会を捉えて提言していく。

その他の視察先：北海道大樹町、北海道恵庭市

一般会議を開催・市長へ政策提言

～地域猫活動について～

議会への市民参加の機会を設けるとともに、多様な住民の意思・意見を聴取し、そこから発生する市政上の課題に対応するための政策提案の拡大を図ることを目的とする一般会議を、7月30日、市民センターで開催しました。

今回の議題は「地域猫活動への理解とその課題について」で、市議会からは教育厚生建設常任委員会の委員が出席。地域猫活動団体の活動内容や地域の現状、課題を聴き、意見交換を行いました。

この一般会議を踏まえ、同常任委員会は「『地域猫活動』に関する提言書」を9月30日に市長へ提出。市へ、野良猫問題などの実態把握や啓蒙活動、積極的な情報発信、地域猫活動に対する支援を行うよう政策提言いたしました。



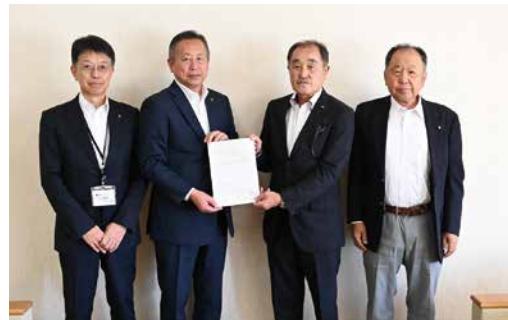
不妊・去勢手術が済んだ地域猫は「さくら猫」と呼ばれます。オスは右耳、メスは左耳の先がカットされ、さくらの花びらと形が似ているためこのように言われています。



▲報告書は
こちらから



▲一般会議の様子



▲武藤委員長・戸村副委員長から、市長へ提言書を提出



チャレンジデーに参加

アクティブシティ角田

10月7日に開催された「角田市チャレンジデー 2026」に市議会議員も参加し、関節痛の予防や心を落ち着かせる「カラダのメンテナンス体操」を行いました。

チャレンジデーは、角田市内の全ての方を対象に15分以上のからだを動かすことを呼びかけ、日常生活に運動を取り入れるきっかけとする日です。今年の参加数は9,439人でした。

編集後記

今年は、エルニーニョに起因しているのか梅雨明けも8月にずれ込み、9月になっても秋雨前線が活発で不順な天気が続きました。稲刈りや畑作業に気をもんだ方も多いのではないのでしょうか。幸い本市では大きな災害はなかったものの、全国を見渡せば、北陸や千葉県など連日のように豪雨による災害が報道され、多くの人命も失われました。お悔やみ申し上げます。本市においても、豪雨に備えた工事なども進んでいるところですが、基本は自助・共助ですので備えや避難場所の再確認をお願いします。

議会だより編集会議

委員 菊地 利衛

令和8年熊本地震 義援金を送金しました

7月28日に発生した熊本地震に対し、角田市議会議員会より、九州市議会議長会へ150,000円の義援金を送金いたしました。被災地の一日も早い復旧・復興を心よりお祈り申し上げます。

12月定例会の予定 会期 12月7日(月)～12月22日(火)

本会議の日程 (午前10時開会)

12月7日	提案理由の説明
16日	質疑・自由討議
18日	討論・表決・一般質問
21日	一般質問
22日	最終日

※日程は変更になる場合があります。

※本会議はすべて傍聴が可能です。また、**ライブ配信(生中継)**を行います。